

# 平成30年度実績に係る部局評価書

部局名:理学部・理学研究科

【評価区分1】 部局年度計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
<b>S</b>	<b>S</b>	<b>S</b>

## 【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		戦略性が高く意欲的な計画として、新規の国際科学特別コース(学部)開設に向けたワーキンググループを計4回開催し詳細に関する議論をおこなったこと、また本コースの募集要項・広報用リーフレットを作成したこと。また、コースの英語講義を担当する教員の配置を検討するなど共通教育のカリキュラム改革に向けて不可欠な多くの業務を担当していることが評価できる。
【研究】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
		基礎理学プロジェクト研究センター「挑戦的研究部門」において、新たに分野横断型の機器開発チーム「RoboLaboプロジェクト」をスタートさせ、学際的・異分野融合的な研究分野の創出・育成を推進していることが認められる。
【社会貢献】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		新たに理学研究科主催の公開講座シリーズを立ち上げ、6回実施した(のべ500人が受講)こと、大阪市立科学館との交流をすすめる、理学研究科の研究を紹介する展示ブースを制作し、3月30日に一般公開したこと、プレスリリース件数が昨年度12件から2倍以上増え29件となったことなどが評価できる。
【グローバル化】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		ダブル・ディグリー・プログラム協定を今年度新たに3件締結し、計12件から15件に増やしたのに加え、今年度に学位(修士)を取得するものを輩出するなど実質的なプログラムの稼働が見られることが評価できる。
【業務運営】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。

## 【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

<p><b>【評価コメント】</b>                  外国大学との国際共同学位プログラム数について、前年度に引き続き、新規に締結した点が高く評価できる。                  外国人留学生比率及び日本人学生に占める留学経験者の割合についても、意欲的に取り組むことで実績を大きく伸ばしていることが評価できる。                  公開講座等の実施件数について、広く一般の方を対象とした公開講座シリーズを始めるなど積極的に取り組むことで実績を大きく伸ばし、大学実績に最も寄与していることが高く評価できる。</p>
--